

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷南1地丁目15番地の13		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276200207-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 12月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者やご家族様馴染みの関係を築き入居者が安全で安心な生活が送れるよう支援しています。コロナ禍の現在、居室空間の換気、マスクの着用、アルコール消毒、清潔保持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、法人と協力しながら感染対策に注力し、利用者が安全で快適な暮らしが続けられるように支援している。「家族アンケート」の実施、運営推進会議の資料配布等を行い、家族や関係者からの意見を聴き取り、事業所運営に反映させている。コロナ禍による地域との交流機会の制限が続いているが、町内秋祭りのお神輿見学や「掛川市ふれあい広場」への参加など、協力関係を継続している。管理者とケアマネジャーは、担当職員を中心に3か月毎にモニタリングを行い、職員の意見を反映させながら、利用者の状態に即した介護計画作りを心掛けている。食事は併設のデイサービスの厨房から手作りで提供しており、職員は、利用者と共に、季節に合わせた献立作りや誕生会を実施し、食事を楽しむ工夫を心掛けている。清掃・換気・消毒の状況を一覧表でチェックするとともに、職員は週2回の抗原検査を行い、感染防止対策を徹底している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前は職員が申し送りの時に理念を唱和していましたが、今は出来ていません。	職員は利用者の情報を「申し送り帳」「連絡日誌」に記して、朝・夕の申し送り時にて情報共有に努めている。管理者は、コロナ感染状況をみながら、月1回フロア会議を行い、事業所理念の確認や課題について、職員との情報共有を図っている。	管理者と職員との情報共有の手段として、申し送り帳等を活用しているが、職員との情報共有の状況が誰でもわかるよう確認できるように、運営推進会議議事録・研修記録等についても、確認印押印等の方法の検討を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、施設の夏祭りの時に地域の参加者を接待、地域のボランティアの受け入れもしていましたが、コロナ禍の状況から行っていない。	コロナ禍により交流機会は制限されるが、町内会に加入し、回覧板や運営推進会議の資料配布等を利用して情報共有・関係継続を図っている。感染対策を取りながら実施した今年の秋祭りでは、神輿が事業所前を通過して、見学することができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、内部のみで会議と、入居者様のご家族にアンケートを行い、議事録を外部の方に郵送しています。	コロナ禍の折、書面開催として2か月に1回資料を送付し、状況報告を行っている。市・地域包括支援センターの担当者・民生委員・家族に対し、今年度実施した「家族アンケート」の集計結果を報告し、今後、意見を反映した改善策を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催するサービスの取り組みに参加し(リモート)、担当者と協力関係が保たれています。	市主催の事業所連絡協議会やGH部会に参加し、他事業所の意見交換・情報共有を図っている。今年は、「掛川市ふれあい広場」が久しぶりに開催され、市担当者と協力しながら参加して、事業所の活動を紹介することができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、拘束を行わないケアを心掛けているが、どうしても行わなければならない場合は、ご家族に相談して同意していただいています。	身体拘束適正化委員会は、コロナ禍ではあるが、事業所職員を中心に3か月に1回開催している。指針・マニュアルを整備している。職員は、テーマを決めて年2回研修会を行い、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、身体拘束の勉強会や会合に参加し、情報交換を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんとの信頼関係は日々の接する姿勢が大切なので利用者さんの話をきちんと、聞くようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し、理解されたうえで同意書にサイン、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により面会の制限があるが、アンケート、電話等のご意見を運営に反映するようにしています。	毎月「サンシティ掛川だより」を発行し、事業所での利用者の様子を報告している。コロナ禍による面会制限が続く中、今年は「家族アンケート」を実施し、集計結果を運営推進会議にて報告した。今後は、改善点を検討し、運営に反映させていく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や提案について、相談しやすい環境作りを心掛けています。	管理者は日頃から、職員からの要望や提案について、相談しやすい環境作りを心掛けていく。課題が散見された場合は都度対応するとともに、申し送り帳(連絡帳)や業務日誌、フロア会議を利用し、職員との意見交換と情報共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、勤務状況を把握し、やりがいをもち働けるような職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会はコロナ禍の為研修の機会はありませんでした。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者交流はコロナ禍の為にリモートで行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話聞いてあげ安心して頂けるよう気を使う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望に対し、なるべく意に添えるように共に考えるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、入居者様が必要としている事を話し合い、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と食事の準備や片づけ、掃除、洗濯物たたみ等職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会出来ないの、ご家族様に入居者の体調など近況を丁寧に説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて面会、外出に制限がありますが、手紙、電話等で関係作りを支援しています。	病院の通院など、家族の協力を得て、入居前からの関係継続を図りながら、事業所・職員との関係が馴染みの関係となるように心掛けている。コロナ禍による面会・外出制限の続く中、オンラインの活用など、関係継続のための方法を模索している。	

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の間人間関係を見ながら入居者さんが気まずくならない様、見守ったり、声かけして支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、必要であれば相談、支援を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人積極的に会話する機会を作り思い、希望、意向の把握に努めている。	利用者・家族の思いや意向は、入居時に家族が記入する「生活歴シート」や、「フェイスシート」を活用して介護計画に繋げている。入居後10日程度の期間は職員による観察をもとにアセスメントを見直し、担当職員を中心に情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴、フェイスシートに記入して頂きご家族、入居者の話を聞き把握している。入居者さんとの雑談で情報を得ることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、一人一人の心身の状態、行動を観察したり、申し送りノートを活用して、職員間の連絡を密して支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報や意見取り入れたりご家族様了承得て、作成、見直し、介護計画の作成をしている。	担当職員を中心に、利用者の日々の様子を観察して評価表を作成し、3か月毎のモニタリングに反映させている。ケアマネジャーは、家族からの要望や受診時の様子、日々観察している職員からの意見等を反映して、介護計画の作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践結果を記録して、職員間で共有して、介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族様の要望、添えるよう、支援、サービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、新年会や敬老会に際してボランティアの方々に来て頂いていましたが、コロナ禍の為地域との交流は行われていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師が月2回往診に来てくれています。	協力医の月2回往診と看護師の週1回訪問により、利用者の健康管理に努めている。医師からの情報は往診ファイルに記載し、家族・看護師・管理者・ケアマネジャー・フロアリーダー・職員間で共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、変化を看護師に情報交換し、アドバイス受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者さんが安心して治療が出来る様、ご家族様、病院関係者と、連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期について施設の方針を説明している。状態に変化があった場合、主治医からご家族に説明し、またご家族からの意見も聞いている。	看取りに関する事業所の対応は、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した際には、管理者は、かかりつけ医とともに再度説明し、家族の意向に沿った対応を確認している。緊急時の対応は、24H看護師と連携しながら、法人本部による定期的な研修で周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、マニュアルを作成している。急変時、事故発生時には対応マニュアルの手順にて実施している。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っています。	災害対策訓練は、年2回、消防署の協力を得て、火災対応の訓練を実施している。備蓄品は災害備蓄台帳に整理して、併設のデイサービス事業所とともに、3日分を目途にローリングストックで管理している。	災害対策については、事業所ごとのBCP作成が求められています。避難訓練実施における事業所での課題を見出し、次回訓練で解決策を検証するという、PCDAサイクルに基づく、継続した訓練実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換や衣類交換、トイレ介助、排泄時、他者から見えない様入り口の戸を閉める。入居者の個人情報他人漏らさない様対応しています。	プライバシーの確保に関する指針を整え、利用者・家族に入居時に説明するとともに、本部研修やフロア会議にて都度確認しながら、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。居室には表札をつけて、利用者個々の暮らしを大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との距離感を保ち、常に寄り添い、意思表示が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にいる人、ホールで過ごす人、まちまちですが職員は、常に安全に過ごすよう見守り、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、ひげそりの支援、2カ月に1回床屋さんの散髪一日おきの衣類の交換、清潔、身だしなみの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房から手造りで頂いています。食後の片づけは、職員、入居者と一緒に行っています	食事は併設のデイサービスの厨房から手作りで提供しており、職員は利用者から食事の味や嗜好について聴き取り、献立作りに繋げている。季節に合わせた献立作りや誕生会を実施し、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は食事以外のときも提供し水分量には気を付けている。食事がスムーズに食べられるように刻みをしたり、誤嚥のある方はトロミを使用して食事量が確保できるようしています。		
42		○口腔内の清潔保持			

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいをやっている。義歯の方は就寝前預かり、洗浄液に浸して翌朝に装着しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、介助、自立支援をしている。	タブレットを利用した排泄記録を活用し、記録と利用者の様子から個々の排泄パターンを把握し、声掛けとトイレ誘導を心掛けている。夜間は、安全面からセンサーマットを利用して、転倒防止に配慮しながら、夜間もトイレ利用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品を頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人その人の体調、気分配慮したり、希望があればその都度入浴できるようにしています。	入浴は週2～3回、午前浴を基本としているが、利用者の体調・気分配慮しながら、柔軟に対応している。職員は、脱衣室に好きな音楽を流すなど、利用者の様子を観察して、気持ちよく入浴できるような工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自部屋で休んだりホールのソファでくつろいだり自由にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書見て、理解し、投薬された薬を本人に手渡したり又、内服介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケにて歌を唄ったり、テレビを見たり、将棋したり、雑談されたり、過ごしています。食器拭き、洗濯物をたたむなどのお手伝いも積極的に行ってきています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの予防対策の為外出は控えています。	コロナ禍の中、外出イベントは控えているが、近隣公園への散歩や事業所前の駐車場を利用した外気浴を行っている。利用者個々の状況に合わせて事業所内の廊下を利用した室内レク実施など、利用者の体力保持を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は責任者が預かっています。外出が出来ない為買い物は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は何時でも出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は清潔を保つようこまめに掃除を行っています。季節の花を生けたりして居心地良く工夫しています。	毎日3回、室内清掃を行い、定期的な清掃・消毒の状況を一覧表に記載して管理している。感染症防止対策として、換気の励行、清潔の保持を心掛けるとともに、職員は週2回の抗原検査を受けている。室内でも季節を感じて過ごせるよう、活け花を飾り、室内環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でテレビを見る人将棋をする人、歌を唄う人、ソファで居眠り、雑談する人、思い思い行動をされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は以前の暮らしと変わらない様、使い慣れた家具、テレビ、家族の写真等持ち込み工夫している。居室は毎朝掃除、換気して清潔な居室環境に心掛けています。	エアコン・ベッド・クローゼットが設置された居室には、手作りの表札を掲げ、使い慣れた家具や机、趣味のもの(折り紙など)を持ち込み、利用者好みの部屋作りを支援している。職員は、毎朝換気と清掃を行い、清潔な室内環境に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが設置され安全に生活できるようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷南1地丁目15番地の13		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276200207-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 12月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者やご家族様馴染みの関係を築き入居者が安全で安心な生活が送れるよう支援しています。コロナ禍の現在、居室空間の換気、マスクの着用、アルコール消毒、清潔保持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前は職員が申し送りの時に理念を唱和していたが、今は出来ていません。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、施設の夏祭りの時に地域の参加者を接待、地域のボランティアの受け入れもしていましたが、コロナ禍の状況から行っていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、内部のみで会議と、入居者様のご家族にアンケートを行い、議事録を外部の方に郵送しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催するサービスの取り組みに参加し、担当者と協力関係が保たれています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、拘束を行わないケアを心掛けているが、どうしても行わなければならない場合は、ご家族に相談して同意していただいています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、身体拘束の勉強会や会合に参加し、情報交換を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの事を学ぶ機会はありませんが機会があれば持ちたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し、理解されたうえで同意書にサイン、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により面会の制限があるが、アンケート、電話等のご意見を運営に反映するようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や提案について、相談しやすい環境作りを心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、勤務状況を把握し、やりがいを持って働けるような職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会はコロナ禍の為研修の機会はありませんでした。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者交流はコロナ禍の為にリモートで行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望に対し、なるべく意に添えるように共に考えるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、入居者様が必要としている事を話し合い、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と食事の準備や片づけ、掃除、洗濯物たたみ等、職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会出来ないで、ご家族様に入居者の体調など近況を丁寧に説明しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍似て面会、外出に制限がありますが、手紙、電話等で関係作りを支援しています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の人間関係を見ながら入居者さんが気まずくならない様、見守ったり、声かけして支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、必要であれば相談、支援を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さんの希望、思いご家族の意向を職員みんなで共有する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴、フェイスシートに記入して頂きご家族、入居者の話を聞き把握している。入居者さんとの雑談で情報を得ることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態を把握し職員間で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごと心身の状態を把握し、変化を、職員間で話し合い、その時の現状、入居者、ご家族様の意向を取り入れ、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日にあった事等、なるべく細かく、わかりやすく記録して職員同士情報を共有できるようにしています		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族様の要望、添えるよう、支援、サービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、新年会や敬老会に際してボランティアの方々に来て頂いていましたが、コロナ禍の為地域との交流は行われていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師が月2回往診に来てくれています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、変化を看護師に情報交換し、アドバイス受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者さんが安心して治療が出来る様、ご家族様、病院関係者と、連絡を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期について施設の方針を説明している。状態に変化があった場合、主治医からご家族に説明し、またご家族からの意見も聞いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、マニュアルを作成している。急変時、事故発生時には対応マニュアルの手順にて実施しています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換や衣類交換、トイレ介助、排泄時、他者から見えない様入り口の戸を閉める。入居者の個人情報他人漏らさない様対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との距離感を保ち、常に寄り添い、意思表示が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にいる人、ホールで過ごす人、まちまちですが職員は、常に安全に過ごすよう見守り、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、ひげそりの支援、2カ月に1回床屋さんの散髪、一日おきの衣類の交換、清潔、身だしなみの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房から手造りで頂いています。食後の片づけは、職員、入居者と一緒に行っています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は食事以外のときも提供し水分量には気を付けている。食事がスムーズに食べれるように刻みをしたり、誤嚥のある方はトロミを使用して食事が確保できるようしています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいを行っている。義歯の方は就寝前預かり、洗浄液に浸して翌朝に装着する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、介助、自立支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品を頂くようにしている。運動(散歩等)でも調整しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上は入浴出来る様支援しています。拒否のある方には、声かけやタイミングを考え対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の際衣類や寝具、居室の温度等を考慮し、安眠出来る様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬の内容や副作用に気を付けて服薬の支援を行い、症状の変化にも気を付けるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった趣味や散歩、カラオケ等で気分転換をしています。又、食器拭き、洗濯物をたたむなどのお手伝いも積極的に行っています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの予防対策の為外出は控えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は責任者が預かっています。外出が出来ない為買い物は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は何時でも出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は清潔を保つようこまめに掃除を行っています。感染対策として、換気の励行、清潔をの保持、季節の花を生けたりして居心地良く工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でテレビを見る人将棋をする人、歌を唄う人、ソファで居眠り、雑談する人、思い思い行動をされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は以前の暮らしと変わらない様、使い慣れた家具、テレビ、家族の写真等持ち込み工夫している。居室は毎朝掃除、換気して清潔な居室環境に心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、ふろ場、洗面所、居室には表札を付けたたり、廊下にははてすりを設置し、安全に行動出来るようにしています。		